

「 さ さ え 」

2013年 4月発行 情報誌 第43号

発行 NPO福祉用具ネット事務局

住所: 福岡県田川市伊田4395 (福岡県立大学内)

TEL/FAX: 0947-42-2286

E-mail npo-fukusiyougunit@sage.ocn.ne.jp

HP <http://www10.ocn.ne.jp/~npofynet/enter.htm>

情報誌「ささえ」は年4回(1月・4月・7月・10月)発行しています。

印刷 よしみ工産(株) 北九州市戸畑区天神1丁目 13-5

福祉用具はあなたの自立をささえます

あなたのささえがNPO福祉用具ネットを元気にします

【商品名】 床ずれ防止用ハイブリッドマットレス
「アルファフラ ソラ」

床ずれ防止には体圧分散+ケアが重要にもかかわらず、これまでのマットレスは体圧分散ばかりを求めていました。医療やテクノロジーの進化にともなって常識も進化します。これからは、ポジショニングや介助のしやすさ、ご利用者のQOLなどを総合的に考慮したマットレスをお選びください。**アルファフラ ソラ**は安定性と寝心地の良さを持つ静止型マットレスをベースに、リスクの高い腰部には新方式のエアセルを搭載。双方の利点を兼ね備えた、ポジショニングなど最新のケアがしやすいこれからのマットレスです。【発売元】(株)タイカ



特定非営利活動法人
NPO福祉用具ネット

「大切な芽を皆さんのやさしさに包まれながら育んでいきたい・・・」

NPO福祉用具ネット設立10周年

を迎えて

NPO福祉用具ネット理事 吉村 恭幸
(財団法人福岡県社会保険医療協会会長)

NPO福祉用具ネットと私の出会いは、本法人設立前のことであった。それは、社会保険田川病院介護保険センターの一隅で当時大山美智江事務局長が、社会保険田川病院の訪問看護ステーションの看護師長として活躍中に洗髪シャワーのテストを九州日立マクセルの方と行っていたことから始まる。

平成14年11月に特定非営利活動法人NPO福祉用具ネットが発足した。当時は「方城町福祉のまちづくり計画策定事業」が始まったばかりで、平成15年香春町福祉のまちづくり計画、平成16年糸田町福祉のまちづくり計画等があった。住み慣れた地域で、医療と介護、そして福祉が切れ目なく提供される仕組みとして「地域包括ケア」の考え方が起こって来た頃である。

平成17年11月、方城町地域再生計画事業「自立支援フォーラム」が行われた。

平成18年1月第3回「自立支援フォーラム」を小生がコーディネーターを務めさせてもらった。基調講演を九州リハビリテーション大学校 橋元 隆教授にしてもらった。テーマは「地域連携の課題とは」でシンポジウムを行った。小生は「私たちの町(方城町)あなたはどう生きてますか？」健康な体と心を維持するためのテーマで話をした。この内容は「高齢者に多い病気と予防対策」として「ささえ」15～20号に連載された。

当時は保健、医療又は福祉の増進を図る活動を行うための環境作りとして、まちづくりの増進を図る活動を行った。QOLの向上を図るために介護の質を上げることが必要であった。そのために住環境を良くする活動も大切なことである。車いすが使いやすいようにバリアフリーの調査を行って、住環境と道具の使い方を一歩でも前進させるよう基盤作りが求められた。

福祉用具を使う人は、病気になった後の人ばかりではなく、その対象者は非常に多くなっている。

医療分野では根治的な治療や治癒を目標にしているが、長寿化による認知症の治療や疾病構造の変化や、ガン患者さんの5年生存率が延びたり、今後増加するであろう「治らない患者」さんに対して、どのように生きるかを考えて「QOL」を重視するようになってきた。

病院・施設も在宅でも多職種が顔を合わせその人

の生きがいを求め、生活の質を向上させることが目的となっている。

医療や介護のあり方に、患者さんや利用者の自己決定権を大切にして、幸せ度を上げることが必要である。まず、相手の人生に立ち向かっている心の姿勢と個性を知り、周囲の人間関係も最大限に利用してQOLを上げる対策を考える必要がある。従って、福祉用具も充分に使って、多くの人に多様な自律性を発揮されるべきである。

平成23年西日本国際福祉機器展に於いても美容リハビリ講座が設けられた。美容こそ人の意欲と幸せを導き出す力となる。

本法人の平成24年度の研修会にゆとり介護セミナー6回シリーズにて看護・介護・作業療法のための美容指導講座が行われた。要介護者がひとりでは出来ない。介護職がサポートすれば笑顔になり、楽しく生きることが出来るようになる。この先進的な考え方は今後もNPO福祉用具ネットの活動の中に生かされるものと思う。

福祉用具の基本は人の体に触れる部分と用具との関係をスムーズにすることである。人の呼吸、姿勢、排泄、皮膚と筋肉や諸器官の機能に対して、ベストの状態に対応し得るかを、素材を考えた上で工夫する必要がある。その上に利用する人の安全、容易な使い方、快適性があり、安価であることが求められている。

新しい用具の開発に高度の思考と、経費が必要である。また良いものをPRし、沢山のの人に利用してもらうためには販路の拡大を必要とする。

高価であったり、保守点検に人と時間を要するなど費用が必要であることに対しては、介護保険やその他の保険制度を必要とする。

生活の質の向上に向けて総合的な問題解決能力をみんなで、出し合っていくことが求められる。

利用者の問題点の発見、新しい開発用具の情報発信、販路開発、利用者への使用の適正な使いこなし、等々、それぞれのチームで専門性を発揮して、お互いの職種を尊重し合って、利用者の役に立つよう努力すべきである。

今後は利用者への適応を考えると福祉用具専門相談員が非常に重要な位置にいることになる。その専門性を幅広く発揮してもらいたいと思う。

本法人の創立以来、今日までの活動は大山美智江事務局長の活躍によるものである。

今後の運営について充分な話し合いが必要である。

NPO福祉用具ネットは、4月には定款変更を行う予定です。これを機会に創設10周年を迎えて、原点に帰り、事業目的に向かって、協力して行きましょう。

シリーズ あきらめない生活改善！『道具・人・環境の工夫』

第3回 「あきらめる前に・・・できることがあるかも」

アップルハート訪問看護ステーション 理学療法士 海尾 美年子
(NPO福祉用具ネット理事)

読者の皆さんの中にはまだ、キネステイクス®ということばが耳慣れない方も少なくないと思います。ご存知ですか？今回は、福祉用具を活用しつつも、「あきらめる前に、できることがあるかもしれない」という発想で、私がキネステイクス®の考え方を取り入れ支援した事例を紹介します。

在宅で娘さんと生活されている55歳の女性Aさんが、今お持ちの身体機能を無理なく活用することで、本人も介護者も、もっと楽に生活できるようになった事例です。

ある日、ヘルパーさんの依頼でAさんの介助を検討することになりました。相談内容は以下のとおりです。

- ◆ 脳性麻痺と頸椎症があり、手術を過去数回受けており、それによる左上下肢の麻痺が強い。頸椎カラーを装着している。
- ◆ トイレでの車イス⇄便器の移動や、寝室で車イス⇄ベッド移動をする際、自力で立つことができなくなり介助量が極端に増えた。そのため、トイレやベッドへの移動が介助では困難になった。
- ◆ Aさんの意欲低下が著しく“自分はもうだめだ”というような言動がきかれる。
- ◆ 以上のような状況なので、リフト導入の検討をしたり、排泄方法を変えたりした方がいいのか、一度動作を見て欲しい。

少ない情報でしたが、まずお会いして、Aさんがヘルパーさんの介助でトイレへ移動する様子と、ベッドへの移動をみせていただきました。見た感じヘルパーさんが持ち上げている状態で、確かにこれでは、Aさんもヘルパーさんもしんどそうにみえました。

まずは、トイレでの車イスからの移動です。Aさんに自分の体重がどこにかかっているのかを確認してもらいました（お尻でした）。次に、立つ場合の重さの動きを膝から足へと何回か私が触ってみました。触ることで重さがどう伝わっていくのかを示しました。そして、重さがお尻から膝、足へ流れる方向にAさんの力を感じながら、Aさんの動きを邪魔しないように介助しました。Aさんは十分に自分の力を使って立つことができました。

顔をみると、自分で立っているぞ！との表情が窺えました。きっと以前簡単に立つことが出来たときの動きに気づかれたのではないのでしょうか。

ヘルパーさんには、まずトイレでの車イス⇄便器の移動について次の3つの立ち位置を考えてもらいました。

- ① トイレでのきめられた環境の中で、Aさんの動きを邪魔しない立ち位置
- ② 介助時のAさんの動きを邪魔しない接触部位に注意すること、筋緊張の変化が常に起こる中で介助でそれを感じることでできる立ち位置
- ③ 転倒を予防できる立ち位置

さらに、介助する動きの方向も考えてもらいました。

次に、ベッド⇄車イス移動では、次の提案をしました。

- ① 従来使用していた手すりを取り払い、Aさんの横にぴったりと接触しAさんの筋緊張を介助者が感じながら一緒にベッドへ移動する。
- ② 麻痺の強い左手は自分の膝の上に、力が入る右手は車イスのアームサポートを押してもらい一緒に少しずつ立ち座りしながら移動する。

すると、Aさんは怖がることなく一緒に動いてくれました。娘さんはすぐに提案を活用されましたが、ヘルパーさんは安全性を重視して従来の手すりを使用した方法でされました（手すりは簡単に取り外しが可能）。この場合もAさんの右手をしっかりと使ってもらいながら、Aさんの動きを邪魔しない立ち位置で一緒に動いてもらいました。

みなさんは体格も違いますので自分に合った方法で考えてもらいました。

後日、依頼されたヘルパーさんからの情報によると、娘さんは、車イスからベッドに気軽に移動介助ができるようになり、ヘルパーさんは試行錯誤しながらの介助継続中とのことでした。また、Aさんは“自分はまだやれる”との思いをもたれ、食事が増えてきたとのことでした。

キネステイクス®の考え方による動きの提案で、Aさんの生活をサポートできてとても嬉しく思いました。私もこのような体験ができて大変勉強になり感謝しています。

シリーズ 福祉用具研究会の活動報告

～15周年に向けて～

第3回「研究会に感謝！」

加藤 民江 (ベストライフ㈱相談支援センターひばり相談員)

平成9年飯塚市社協のホームヘルパーとして私の福祉の仕事人生がスタートしました。そこでは、せき損の利用者様を、リフトを利用して入浴介助する等、それまでに見たことのない福祉用具との遭遇があり、新発見の毎日でした。

平成11年には太陽シルバーサービス㈱の訪問介護事業所立ち上げに参加。ちょうどその頃、訪問看護の師長をされていた大山美智江さん(現在、NPO福祉用具ネット事務局長)との出会いがありました。ある利用者様の入浴介助をヘルパーが行ない、その後の処置を看護師さんが支援していました。何年も入浴出来なかった利用者様が大山さんのがんばりで入浴出来る様になったと感謝されていたことを、鮮明に記憶しています。さらに、車いすの座面に敷き、体圧を分散するためのロホクッションを見たのはこの方のお宅でした。それまでのクッションという一枚のウレタンなどで構成された物しか知りませんでした。このロホクッションとの出会いは私がそれまで持っていたクッションというものの概念を変えてくれました。

その後「ホームヘルプめい」の石田さんと事業所を立ち上げ、ケアマネジャーの仕事へと変わりNPO福祉用具ネットの会員となり、数々の研修会に参加しました。さらに、福祉用具研究会のメンバーになり、そこでは色々な職種の方々と出会い、困難事例、住宅改修、福祉用具の調整等大山さんをはじめ研究会の方々に支援していただききました。私にとっては、福祉用具研究会では、このように他職種とともに研鑽を深めることができる貴重な場となっています。さらに、洗髪用シャワー、ピーウェーブ(アルファプラ ソラ)、ヒューマニーなど福祉用具研究会やNPO福祉用具ネットを介して知り得ることができた福祉用具は、多くの利用者様の“困った”を解決するのに役立たせていただいています。利用者様やご家族から「ヒューマニーと出会って生活が変わった、ヒューマニーなしの生活はもう考えられない」等の声を聞いています。

そして今年2月自立支援法の相談支援専門員と

しての第一歩を踏み出しました。今までの高齢の方々の支援のみでなく年齢も疾患も幅広く、ますます福祉用具研究会とNPO福祉用具ネットの方々に助けていただきながら、がんばっていきこうと思っています。

特集

ヘルパーの独りごと

NPO 福祉用具ネット情報誌

「ささえ」編集委員会

「ささえ」42号では、ヘルパーさん達にお伝えしたいことを掲載しました。その中には、福祉用具の使い方をはじめとするスキル不足などという厳しい指摘がありました。一方、利用者様は、ヘルパーさん達の来訪を心待ちにされているという意見もありました。温かい気持ちや態度で利用者様に接しておられる姿が目につきます。

今回、43号ではまさしく介護の最前線で頑張っておられるヘルパーさん達の「独りごと」を掲載します。今回の編集では、なかなか意見があつまらず苦労しました。きっと伝えたいことはたくさんおありなのだと思います。しかし、それを声に出して表現するという作業は、立場的にも気持ち的にも難しいこともありますね。でも、ご利用者さまの為にも、ぜひ声を出してみてください。きっと何かが変わり始めると思います。

ヘルパーからヘルパーさんへ

- ◆ 複数の事業所で、おひとりの利用者の方のケアを行うと伝達や連携などで手間はかかりますが、双方の事業所のやり方など学べるメリットもあります。
- ◆ ご利用者さんに負担がかからない状況であれば連携や協力を惜しまず、関わりたいものです。

福祉用具専門員さんへ

- ◆ ヘルパー同様よく勉強されている方でない方スキルに差があります。意見をどの程度言ってよいのか気を使います。

訪問介護の方々へ

- ◆ ご利用者の在宅での様子を情報としてもらうことで、ご家族から得る情報とはまた違うご利用者の様子がイメージできます。それはデイサービスでのケアにとっても大事なことだと考えています。
- ◆ 専門分野はわからなくても情報をいただけることで利用者さんの何を見ないといけないかがわかり、役立つ情報提供者になりたいと思っています。気長くおつきあください。

訪問リハの方へ

- ◆ ヘルパーの援助への意見・提案をいただくと助かります。

通所介護事業の方へ

- ◆ 送迎時間の変更の連絡がなく困ることがあります。

訪問看護師さんへ

- ◆ 一緒に高齢者を支えるにあたり、医療的な事が分からない事も多いので質問をしたいと思っています。
Drには直接聞きづらいので訪問看護師さんに聞いているのに、「そんな事も分からないの？」という顔をされます。
- ◆ もっと優しく接していただきたいです

ケアマネージャーさんへ

- ◆ 業務内容が多岐にわたるためプランにないサービスをうっかり提供したりしてご迷惑をかけています。
- ◆ 訪問介護に詳しくないケアマネさん！その旨伝えて頂ければ詳しく説明したり、意見を言わせていただいたりしやすくて助かります。つい「わかってくれない！」なんてポヤいてしまいます。すみません。
- ◆ 現場で一番、利用者様に関わり身体状況が分かっているつもりです。もう少しヘルパーの意見に耳を傾けてください。
- ◆ ヘルパーの存在価値を認められないように感じるようなことがあります。そのため、なかなか意見を発することは難しいです。
- ◆ ケアプラン等作成した時には早く渡して下さい。ヘルパーも計画書を作成し利用者様に同意を頂かないといけません。
- ◆ 新規の利用者さんの情報は事前に頂きたいです。名前と住所だけで初回の担当者会議は状況が把握しにくいので、良いサービスが出来ません。

…老ヘルパーのぼやき…

平成24年4月からヘルパーの業務の大部分を占める生活援助が45分未満と45分以上の2区分のみとなりました。報酬単価の改正で生活援助の時間の区切りが45分未満もしくは45分以上（これまでは60分未満60分以上）とされ単位数が減少したため、事業所としては70分程度で切り上げないと採算はとれないという現状です。それまで90分かけて支援していたことを60分ですますとなると状態観察などの余裕もなく業務をこなすだけに追われてしまいます。日常的に利用者様の生活に入るヘルパーは、利用者様の状況を観察することができます。そして少しでも変化があった場合、それぞれの専門職につなぐことは、ヘルパーの重要な役割の1つです。しかし、今まで90分でやっていた業務を60分でできないことはありませんが、状態観察に時間を費やすことができないので、おろそかになってしまうという不安があります。おかずに一品少なくとも状態観察を行い、身体や疾患のことが気になれば、専門分野へつなぐのがヘルパーの役割と自信持って言えます。しかし、仕事をやり残さず、プロの目で観察できるヘルパーはなかなか少なくて申し訳ありません。でもプロ意識をもってやるべきことを目指さなければ実現はありえない。このことをチーム全員で共有できる職場作りを心掛けて頑張らねばと、老体にムチ打っています。後継者が育たなければ引退もできそうにありません。

今、思うこと。「福祉用具の開発に王道なし」

(その33)

日立マクセル(株) 技師長 坂田 栄二
(NPO福祉用具ネット理事)

現場になじまないボックス型収納

洗髪シャワーの開発に取り組んでいた松原は、シャワーヘッドを節水型に出来る用途を付けたものの、使い終わった後の「簡単収納」に悩んでいた。

この「簡単収納」は、大山の譲れない要求だったからだ。何としても解決しなければならぬ。

ここで大山の要求を、前号から振り返ってみる。

松原の考えている「簡単収納」とは、

①終わったあと、ポンプやホース内に残っている水抜きが簡単にできる事。水が残ったままでは、持ち運び時にポタポタと滴が垂れ、利用者の家の床を濡らしてしまったり、収納したキャリングケース内に水がこぼれる事が起きるために、水を抜く必要があるが、これを簡単に抜けるかということ。

②長いホースを、くるくる丸めて収納するのでは、時間がかかること。

③次の訪問先で、すぐに使えるように収納できること。

④ポンプとホースをつないだり外したりするのは、客先で時間を取られ面倒であること。

である。

①と④が解決できたことはこれまでに説明したが、残る課題は②と③である。

松原は機械設計屋である。機械屋が考えると②と③の解決策は、下の写真のように、ボックス形状になる。



ホースは、丸めずに、ボックスの中に無理やり押し込めるし、次の使用時は引っ張り出せばすぐ出てくる。また、水が少々残っていても漏れ出ることはない。

しかし、大山と話をするとき、どうもボックス型ではないようだ。こんなものは、介護現場には持ち込めないと言う。ごっつ過ぎるからだ。

使うときは大きく、使わないときは小さくなる、まるでドラえもののバッグが望みのようだ。

答えはトートバッグ

大山のイメージするものは、トートバッグのような袋タイプの手提げバッグにあった。

あちこち探し回った挙句、1軒のバッグ屋さんのおかみさん手作りバッグに出会った。

おばさんの流暢な売込みことばに心を動かされ、そのバッグを大山に見せて意見を聞きたいと思い、貸してくれるようにおばさんに申し入れた。

「すみませんが、しばらく貸してもらえませんか？」

さすがにこの初対面の初老の男に、おばさんはたじろいだ。

あわてて、松原は名刺を出して、実はこういうものですと自己紹介した。

このころ、松原は既に定年退職をされており、長年勤めた会社とは言え、昔の開発部長の名刺を出すわけにはいかない。

おばさんに渡した名刺は、ほとんど実体のないと思えるようなベンチャー会社の名前だった。

おかみさんは怪訝そうに松原の顔と名刺を見比べている。どうも納得していない様子だ。

売ってくれない手作りバッグ

松原は、仕方なくポケットの財布を出しながら、

「おいくらですか？」

おばさんは、しゅしゅ口を開いた。

「試しに手作りしたんだから、これ1個しかないから売れないよ。まだ値段も決めてないし・・・。」

しばらく、おばさんは考えて、

「今すぐ要るのかい？」

「今すぐ要るんだけど」

「1つでいいのかい？」

「1つでいいんだけど。」

松原もすかさず、おうむ返しのように返事をする。

「しょうがないね ——。」

「このバッグをどうしても見せたい人が居るんだ。」

「じゃー、その人を連れておいでよ。他にもいろいろ見せたほうが良いんじゃないかい？」

「その人は忙しい人だから、なかなか連れてこれないんだよ」

また、しばらく考え込んでいるおばさん。

「しよーがないねー。それじゃー・・・、お貸しするからその人の意見を聞いてきなよ。あんたがもし返しに来なかったら私も困るから、少しお金を置いて行きなさい。」

そう言って松原のほうにバッグを差し出す強気のこのおばさんに、ようやく笑顔が出た。

松原は、まわりの壁にかかっているバッグを見ながら、これくらいで良いだろうと値踏みをし、財布から1000円札を5枚取り出して、

「これで良いかい？」

「ああ・・・、十分だよ。あんたも困るだろうからお金の預

かり書を書いておこうね。でも必ず戻しに来てね。」
と念を押しながら、伝票を書き始めた。

松原は、バッグの中を覗き込んで、
「(大山さんは)これできっと満足してくれるぞ。」

半分合格は半分失格！

「こんなんでいいか？(このようなもので良いか?)」
事務局に戻った松原は、幼稚園児が、さもカバンをブラ
ブラさせるような仕草をしながら、部屋の中を歩いて見
せた。

それを見ながら大山は、
「なんしょんね。(何をしてるのか?)ファッションショー
じゃあるまいし。えらく風変わりなものを持ってきたね。
ちょっと見せてん。(見せなさい)」

大山は、バッグを受け取ると、持ち手に指を掛け、上下
に動かしながら、
「軽くていいね。これくらいでちょうどいいかも。」
続いて、バッグの口を開けて中を覗き込み、
「中はシンプルでいいね。ゴミも溜まりにくいし、掃除が
簡単で済みそうね。」

バッグの口を左右に大きく広げ、
「この中に、シャワーを入れてみてん！」
松原が、手にしていたシャワーとホースを中に入れる
ように促した。

思ったよりも、ホースを小さく丸めなくても、すんなりと
入った。普通はホース特有の弾力性で、バッグの口か
ら突き出たり、バッグをパンパンに膨らませることが有
るが、そんなこともなくちょうど良い幅と深さだった。

しかも、シャワーやホースを取り出すと、バッグはペ
ットタンコに折り畳める。実にシンプルで手軽だ。

ここまでは、大山も満足した。

しかし、またしても大山独特の注文が付いた。
「クリップやブラシはどこに入れるの？ホースと一緒に
バッグの中？」

松原は、虚を突かれた。
(そうか！洗髪するときに必要な小物があつたんだ。)
松原は、返答に躊躇した。
「バッグの外側にポケットを付けたら！」
「ポケットには、蓋(フラップ)をつけてね。」
「小物が、落ちないようにマジックファスナーかボタ
ンをつけてね。」

「色は、明るい色よりも、落ち着いた色に……。
汚れてもいいようにね。」
「縫い目は、外側に出るように。内側に出ると、シャワ
ーを取り出す時に邪魔になるから。」

大山の口から次々と飛び出る注文を聞き逃すまいと、
松原は必死にメモを取っている。いつもの光景である。
「松原さん！半分合格やね。まあまあ上出来！」
松原は、喜んでいいのやら、困ってニヤツと笑った。
半分合格とは、半分失格ということじゃないか。それで

も、まあ良いかと思ひ直してドカッと椅子に座った。

数日後、大山からのこまごまとした注文内容をまとめ
て、バッグ屋さんを訪ねた。バッグ屋さんに口で言った
だけでは、判りにくいと思ったので、図面にして持って
行った。

「役にたったかね？」

約束通り戻りに来た松原を、バッグ屋のおばさんは
笑顔で迎えた。そして預かり書と引き換えに松原にお
金を返した。

松原はお金を財布に仕舞いながら、
「ありがとう。役に立ったよ。おかげで、手直しなくち
やいけなところが判ったよ。」

そう言って、図面を手渡した。
おばさんは、機械設計図面なるものを見たことが無か
ったのか、

「ここは、どうなっちゃうとね。(どうなっていますか?)」
と聞いてくる。後で松原も知ることになるが、機械図面
は洋裁の図面の書き方と全く違うのである。

松原は、空き紙に立体図を描いて見せた。
「ああ……。よう判った。あんた、絵がうまいんやねー。」
松原は、年甲斐もなく照れながら、絵を描いていく。

「こんな風にて出来るかい？」
「ああ、出来るよ。」
「それじゃ、お願いなんだけど、1つ作ってくれない？」
「いつまでに？」

「出来るだけ早いほうが良いんだけど。」
「でも、合う色が今すぐ無いね……。何とかするから3日
後に取りにおいでよ」
「そんなに早くできるの？」

初めての縫製技術とのふれあい

松原は、2週間くらいは覚悟をしていたが、縫製って
そんなに早くできるのかと感心した。機械部品だと、削
ったり磨いたり、ねじ切りしたりするとすぐに2週間くら



いは経ってしま
う。松原は、
縫製という技
術を初めて経
験した。

松原が手掛
けた商品に布
生地をつかう
ことがなかつ
たからだ。

3日後にお
ばさんから電
話があった。

「出来たよ！取りにおいで。」

上の写真がその試作品である。(次号へ続く)

事務局だより

【1月から3月までの主な事務局のうごき】

1月

F J C協会委託事業見学会企画3件
平成24年度会計の整理、平成25年度事業計画検討
NPO福祉用具ネット事業概要10年間のまとめ
定款の見直し案作成
開発に関する相談事業3件
コンサルタント事業
1月31日生活支援ロボットセミナー&展示会出席

2月

平成25年度事業計画及び事業報告書案作成
2月9日理事会開催
10周年記念行事検討
情報誌編集委員会開催
企業からの業務委託事業 開発品の検証試験26日より開始

3月

企業からの業務委託事業 開発品の検証試験
理事会開催
年度末決算

【今後の予定】

平成25年度通常総会開催が決定

日時 4月23日火曜日 18時から
会場 福岡県立大学内
審議事項

1. 平成24年度事業報告及び決算報告
2. 平成25年度事業計画案及び予算案
3. 10周年記念行事について
4. 定款の変更について

正会員の皆さまは、送付している情報誌とともにお届けした所定の用紙にて、出欠届を全員提出してください。また、欠席の場合は委任状を必ず提出していただきますようお願いいたします。

平成25年度福祉用具研究会がスタート

第1回目福祉用具研究会
日時 25年4月11日木曜日 18時から20時
場所 福岡県立大学附属研究所2階
内容 排泄ケア用品について
今年度の研究会テーマは
【最新の福祉用具の情報をカタログから読み解き、利用者像を考えよう！】

平成25年度研修会予定

決定している介護技術セミナーは以下のとおり。
■5月18日(土) 14時~17時予定

排泄ケアセミナー

- ① オムツの選び方と上手な当てかたのテクニック
 - ② 自動排泄処理装置の選び方と活用法
- 6月1日(土)・2日(日)と7月20日(土)
3日間コース

【看護のキネステティクス®ベーシックコース】
募集定員 20名

■6月29日(土) 14時~16時

【認知症の診断と治療について】

■9月27日(金)

これまでに2日間の技術習得コース修了者を対象

【動作介助とポジショニング技術フォローアップコース1日間】募集定員 16名

■9月28日(土)・29日(日)【動作介助とポジショニング技術習得コース2日間コース】

看護・介護・リハの専門職対象

募集定員 32名

その他にも現在企画しています。

福祉住環境コーディネーター(FJC)協会委託事業見学会

【いずれもFJC協会事務局への申込が必要です。
(見学費用有料)】

5月11日(土) 障害者支援施設《篠栗園》

6月22日(土) くまもと江津湖療育医療センター／通園センター

7月12日(金) 介護保険総合ケアセンター《いずみの園》

平成25年度西日本国際福祉機器展開催日決定

日時：11月22日(金)・23日(祭日)・24日(日)

今年も3日間、さまざまな福祉用具活用セミナーや介護技術セミナーをたくさん企画します。

新年度に向けて、会員の更新手続きを開始中です。

また、新年度の会員の募集を開始いたします。

事業年度は25年4月1日から26年3月31日

個人会員入会金 1000円

年会費 4000円

団体会員入会金 2000円

団体年会費 30000円

お知らせ

自動排泄処理装置 尿吸引ロボ「ヒューマニー」
についてのご相談をお受けいたします。

適応事例や使い方など不明なことがありましたら
NPO福祉用具ネット事務局までお問い合わせください。

電話 0947-42-2286

メール npo-fukusiyougunet@sage.ocn.ne.jp